



医師国保組合の存立意義を踏まえ、組合の存続発展と健全な運営が確保される配慮等を求める決議を採択

## 全国医師国民健康保険組合連合会 第43回全体協議会開催

去る9月30日(金)に全国医師国民健康保険組合連合会(略称「全医連」)が、主催近畿ブロック、担当兵庫県医師国保組合で、兵庫県神戸市「神戸ポートピアホテル」において全国各医師国保組合の代表者など約632名が参集して開催された。

その概要を報告いたします。

当組合の出席役員

理事長 飯塚弘志	副理事長 横田一郎
常務理事 赤倉昌巳	常務理事 千秋 亨
理事 上埜光紀	理事 中村興治
理事 河西紀夫	監事 岩本英男

全医連の全体協議会は、全国を中国四国、関東甲信越、近畿、九州、中部、東北北海道(開催順)の6ブロックに分け、ブロック持ち回りによって開催され、医師国保組合運営上の問題点などについて協議している。

会議は代表者会と全体協議会とに分かれて開催されるのが慣例となっている。

## 代 表 者 会

平成16年度会計決算等を審議

第44回全体協議会主催九州ブロック

開催地 沖縄県那覇市

代表者会は、昼食後12時30分から各組合の理事長(代表者)が出席し開催された。なお、当組合から飯塚弘志理事長が出席している。

兵庫県加古康明常務理事が司会を担当し開会を宣した。

会議では最初に、兵庫県橋本章男理事長から主催ブロックを代表しての挨拶と、全医連の福井光壽会長(東京都理事長)から挨拶が行われた。

次いで、兵庫県橋本章男理事長を議長に選出して協議に入り、平成16年度事業報告及び歳入歳出決算、平成16年度監査報告、全体協議会の運営等

が原案どおり承認された。

また、今回も決議を行うこととなり、近畿ブロック等で協議したその決議の文案が発表され承認となり、「決議」の取扱いは主催の近畿ブロックに一任された。

なお、明年の全医連次期全体協議会開催地についても協議され、持ち回りにより主催当番は九州ブロック、担当組合は沖縄県医師国保組合と決定され、沖縄県の稲富洋明理事長から挨拶がなされた。

## 全 体 協 議 会

協議事項、決議など原案どおり承認

午後1時30分から全体協議会が開催され、兵庫県加古康明常務理事が司会を担当し、滋賀県山敷祐亮理事長が第43回全体協議会の開会を宣した。

最初に兵庫県橋本章男理事長から主催ブロックを代表しての挨拶と、全医連の福井光壽会長(東京都理事長)から挨拶があった。

次に、日本医師会植松治雄会長、全国国民健康保険組合協会阿部正俊会長(代理、会長代行坂本龍彦副会長：全国土木建築国保組合理事長)、兵庫県医師会西村亮一会長、神戸市矢田立郎市長(代理、岡秀次保健福祉局健康部長)、神戸市医師会川島龍一会長の各氏から来賓祝辞があり、他来賓者の紹介が司会者から行われた。

引き続き厚生労働省保険局国民健康保険課唐澤剛課長からの祝電が披露された。



全医連第43回全体協議会北海道出席役員



全体協議会の会場風景

次に、議長団に近畿ブロックの各組合の理事長6名が選出され、議長には慣例により、担当組合の兵庫県橋本章男理事長が選任され議事が進められた。

#### \*承認事項

- (1) 平成16年度全国医師国民健康保険組合連合会事業報告及び歳入歳出決算の承認について
- (2) 平成16年度監査報告について
- (3) 平成17年度全国医師国民健康保険組合連合会事業計画及び歳入歳出予算の承認について
- (4) 平成17年度会費の額及び徴収方法の承認について
- (5) 選出役員の承認について
- (6) 次期全体協議会の開催地について

最初に兵庫県橋本章男理事長から代表者会の「全体協議会の運営について」等の結果報告が行われた。

次いで、上記の(1)、(3)～(5)について一括して全医連岡田弘三郎理事(兵庫県副理事長)から資料に基づき説明報告があり、続いて(2)の監査報告が全医連幸地賢治監事(沖縄県常務理事)から、(6)について兵庫県橋本章男理事長から報告が行われ、原案どおり承認された。

#### \*決議

引き続き、別掲の「医療保険制度改革に当たっては、医師国民健康保険組合の存立意義を踏まえ、組合の存続発展と健全な運営が確保されるよう配慮すること。」等を求める三事項の決議案が

奈良県有山雄基理事長により提案され、満場一致の賛同を得て原案どおり採択された。

なお、この決議の取扱いについては、近畿ブロックに一任された。

次いで、研究発表が次の演題により行われた。

#### \*研究発表

座長：京都府医師国民健康保険組合  
理事長 西 祥太郎

演題：『国保問題検討委員会報告書について』

講師：全医連副会長  
全医連国保問題検討委員会委員長  
宮城県医師国民健康保険組合  
理事長 日野 泰彦

この後、全医連「次期全体協議会開催地理事長挨拶」が主催の九州ブロックを代表して担当の沖縄県稲富洋明理事長から「平成18年10月20日(金)に那覇市において開催の予定である。」旨の挨拶があった。

この後、和歌山県岡久雄理事長から閉会の言葉があり、引き続き、特別講演が行われた。

#### \*特別講演

座長：兵庫県医師国民健康保険組合  
理事長 橋本 章男

演題：『死に方のコツ、生き方のコツ』

講師：日本医科大学医療管理学教室  
助教授 高柳 和江

以上で全医連の第43回全体協議会は無事終了した。

## 決 議

医師国民健康保険組合は、国民皆保険制度の確立以前から設立し、医療従事者の相互扶助として、組合員の健康と福祉の増進のために、自家診療給付の抑制や保険料の引き上げ等、不断の経営努力を行いながら、模範的な運営を続ける国保組合として存続してきた。

しかし、近年の経済不況、少子高齢化や医療技術の進歩等に加え、一連の医療保険制度の改革による前期高齢者の医療費負担や老人保健医療費拠出金の増大などによって、組合の財政状況は、極めて厳しいものとなり、組合の事業運営は、設立以来の危機に直面している。

また、国は、平成二十年度を目途に、「保険者の再編・統合」や「新しい高齢者医療制度の創設」などを内容とする医療保険制度の改革を行おうとしている。この改革においては、医師国民健康保険組合が、国民皆保険制度の一翼を担う重要な役割を果たしていることを理解し、組合の存続発展につながる施策を講じられるよう求めるものである。

本協議会は、将来の組合運営に対し、厳しい危機意識を持ちながら、これらの諸問題を慎重に審議した結果、左記事項について、政府、国会並びに関係機関に強く要望する。

## 記

- 一、医療保険制度改革に当たっては、医師国民保険組合の存立意義を踏まえ、組合の存続発展と健全な運営が確保されるよう配慮されたい。
- 一、老人保健法の適用年齢の引き上げに伴う負担増に配慮した財政措置を講じられたい。

- 一、国庫補助水準の引き上げ等の財政措置を講じられたい。
- 右、決議する。

平成十七年九月三十日

全国医師国民健康保険組合連合会 第四十三回全体協議会

## 道医師国保公告

平成17年11月1日  
道医国保公示第311号

北海道医師国民健康保険組合  
理事長 飯塚弘志

北海道医師国民健康保険組合の組合会議員が、次のとおり変更されたのでこれを公示する。

## ◎退任された議員

坪谷 隆二（滝川市：平成17年9月30日退任）

## ◎就任された議員

菅原剛太郎（滝川市：平成17年10月1日就任）